

目 次

	ページ
SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	ガンマ線バースト源は見えたか? 吉田 篤 正 338
EUREKA 〈研究紹介〉	ミリ秒パルサーからの 非熱的X線パルス放射の発見 斎藤 芳 隆 346
天球儀 〈読物〉	超新星サーベイ共同プロジェクト SNOW 山岡 均, 土居 守 352 茂山俊和, 安田直樹, 渡邊 大
短期連載	インドの伝統天文学 大橋由紀夫 358 —特に観測天文学史について(1)
SPECTRA	地学教育はどうあるべきか 木村 龍 治 365 科学論文出版の戦術 E. N. パーカー 370
シリーズ	《サイエンスだってやっています! 公開天文台(8)》 福島 英 雄 376 国立天文台・天文情報公開センター・広報普及室
書評	天球で考える地球の運動ほか天文ビデオシリーズ 378 大宇宙の誕生 379 教養のための天文学講義 380
雑報	日本天文学会早川基金による渡航報告書 381 「観測所が銀河学校になった3日間」 382
寄贈図書リスト	385
月報だより	385

表紙説明

江戸時代の積円通の『仏国曆象編』(1810年)とその中の須弥山の図。中央に須弥山があり、右下の南閻浮洲が人間世界である。古代インドの須弥山説は、ヒンドゥー教・ジャイナ教・仏教で若干の違いがあるが、仏教系のものは東アジアにも伝来し、日本の仏教者たちによっても信奉された。円通は、当時日本に伝来しつつあったヨーロッパ天文学に対抗して、奇妙だが壮大な仏教天文学の体系を展開した。当時の日本の天文学の水準から見れば、円通の仏教天文学は小さな傍流であったに過ぎないが、天文学の交流という観点から見ると興味深い。(短期連載参照)

(表紙イラストレーション: 藤居保子)